

立命館大学文学部卒業論文題目

哲学科 哲学専攻

悦びについて

井澤 一弘

生成と存在

正路 千曉

ギリシア人の悲劇時代における哲学

高橋 康弘

ローチとの連関

守津 隆

ライブニッツ・デカルト・スピノザをふまえて

われわれの生について

田中 健次

カント構想力の系譜

山持 利謙

世界理解をめくって

進化論的倫理とヒュームの洞察

津川 勝弥

形而上学の可能性を探る

山本 崇記

永井均の独在性に関する議論から

存在の根底に関わる絵画

野上 恵

「世界内存在」としてのわたしと芸術作品

山岡 武史

レヴィナスにおける「他者」をめぐる考察

M・メルロ・ポンティに依って

能勢 剛

公共性について

山谷 武史

「タレスの哲学について」

間柄の倫理学

能勢 剛

存在の多義性

渡辺 朗

万物の源は水である！

和辻哲郎の再評価

能勢 剛

アウグスティヌス

渡辺 朗

自殺は倫理的に許されるのか。

「まなざし」と「あいだ」における自己と他者

平野 政典

環境問題を考える

岡崎 敬子

倫理と進化

サルトルの『存在と無』と、木村敏の「あいだ」

平野 政典

現代存在論を参考にして

岡崎 敬子

あるがままの自己、あるいは仮面をはずせない自己

思想を巡っての一考察

平野 政典

アイデンティティと政治の両立について

金 剛弘

己

生命の質と神聖性

平野 雄一

田辺元の行為的自覚について

竹花 洋佑

ルソーにおける「自己」と「自他の関係」

道元と能の身体

松迫 妙

道徳的行為における「相対 絶対」の成立

大隈 幹子

ヘラクレイトスと神秘主義

十九世紀末ヨーロッパ社会と現代日本

松原 讓

プラトンにおけるソクラテスの死の意味

大隈 幹子

死刑制度についての考察

J・P・サルトルの対他存在論と犯罪社会学

松原 讓

『ソクラテスの弁明』『クリトン』『パイドン』

大隈 幹子

ベンサム刑罰論

シェリング

宮本ゆかり

をめぐって

大隈 幹子

現象的身体と身体的空間性

人間における自由と悪の可能性

宮本ゆかり

『ソクラテスの弁明』『クリトン』『パイドン』

大隈 幹子

M・メルロ・ポンティ「行動の構造」と「知覚

人工妊娠中絶

目良 和子

シヨールペンハウアーの人間観

川勝美早子

の現象学」をめぐる解釈

フッサールとロジャーズ

森 雄哉

「意志と表象としての世界」を考察する

川勝美早子

ヴィトゲンシュタインによる哲学の解決の問題

現象学的方法とパーソン・セントアード・アブ

森 雄哉

「技術化の世界における「存在」の可能性」

川勝美早子

- 人間性の回復に向けて 永松 誠二
- ピュタゴラス、その人物像における考察 森 強三
- ピュタゴラス自著の有無の問題および南イタリ  
ア移住をめぐる諸問題について 山崎 千佳
- アリストテレスの徳 廣岡 三玲
- フーコーにおける権力 岩本 尚子
- パルメニデスの存在思想 波多野圭之
- 柔らかい「決定論」 松浦 則元
- 青年ヘーゲル 長瀨 肖美
- ヘーゲル美学における模倣の原理へのアンチ  
テーゼ 菊池 佳久
- ニーチエ論／運命を愛するということ 菅原 淳二
- ニーチエの「超人」思想について 椿 啓子
- 医療の場における決定について 伊藤 邦夫
- 子ども・知的障害者を手がかりに  
ハイデッガー「存在と時間」における現存在分析  
に対する考察
- 哲学科 心理学専攻
- 誤導情報効果について 赤木 康子
- 信仰心が高齢者の主観的幸福感に与える影響 秋元 由美
- 幼児の遅延提示されたビデオ映像による自己認知 安部めぐみ
- フレームによる映像酔いの効果 荒木 睦美
- ダウン症児の数の多少概念獲得に対する研究 廣告刺激を用いた説得状況での検討
- テクスト学習における他者との相互作用の効果 伊藤さと子
- 幼児の想像物における認識について 植竹奈緒子
- 自己認知と精神的健康の関係 江川 素子
- 高校生を対象にした考察 大槻健太郎
- 聴覚刺激による思考の妨害／助長 片山 宏
- 強制的承諾における認知的不協和と自尊心による態度変容の差異 加藤 梓
- 自尊心と自己焦点化による決定後の偏愛 ショートトラックにおける行動的コーチング  
神野 由佳
- ダウン症児における時刻を手掛かりとしたセルフ  
マネージメントの獲得 川村 ふき
- 自尊心とネガティブフィードバックによる決定後  
の偏愛 菊池恵美子
- 運動表象システムの独立性の検討について 黒瀬 亮
- 3歳児における対人葛藤解決方略について 小谷 教子
- Landの二色法による色再現とBalseyの仮説検証 酒井 香澄
- 音発生動作の視認が音源定位に及ぼす影響 澤井 正和
- 幼児における対人特性の認知について 渋谷 郁子
- ムードが説得過程に与える効果 島田 有紀
- 選択の機会における曖昧性忌避の研究 下河 竜一
- 個体内データにおける制御幻想とリスク行動の関  
連性の検討 諏訪 智史
- 暴力映像の表現形式の違いが攻撃行動に与える影  
響 田内 高志
- 計算の反復練習が他の算数領域に及ぼす影響 高木 玲
- 学習の転移について 高田佳代子
- 剣道の「面」の打突に対するパフォーマンス・マ  
ネジメント 高田 奈穂
- 中学生における死生観と死別体験との関連につい  
て 高橋 恵子
- 青年期における自我同一性と友人関係との関連 武岡 芳
- 強制的承諾による認知的不協和とその低減のため  
の態度変容 武中 夕子
- 大学生における友人関係満足度と自己表明・他者  
の表明を望む気持ちの関連性 出口 彩
- ネコにおける飢えが及ぼす玩具への接触行動 中井 智
- 意志決定におけるフレーミング効果の排除 永島 涼太
- 連合における時系列的変動の要因の検討 西口 明宏
- メロディ認知における調の認知反応について 西田 沙織
- 対人関係におけるユーモアの効果 橋本 理
- 流行の採用動機について 長谷川 静
- 自伝的記憶の楽観性による分析

- リーダーシップ行動の有効性を規定する状況要因の検討 羽田啓一郎
- 青年期の向社会的行動と罪悪感、共感性との関連 福岡 毅
- 京都市における大学生の認知距離 藤井 大樹
- コントロールの錯覚が及ぼす効果について 船間 由香
- 障害者の複雑なパソコン操作習得における援助設定の検討 宮崎 際
- 信頼性判断における情報の選択と利用 村田 法子
- 抗議行動の研究 村松 洋
- 日朝関係における拉致問題に対する抗議行動を例として 柳田 周子
- 間接的な空間学習における整列性効果の検討 山田 未緒
- 地図と文章による学習の比較を用いて 吉田 聡美
- 年代による移行対象の変化とその効用 山田 未緒
- 大学生の教室における座席選択行動について 吉田 聡美
- 認知的不協和理論における行為に及ぼす自尊心と攻撃の効果 吉田 英立
- 一般性自己効力感とネガティブな出来事に対する原因帰属および対処行動 米田 絵美
- 就職活動場面についての検討 池田 聡
- 音楽作品がもたらす感情的反応と音楽作品の持つ感情的性格との関連の検討 池田 聡
- 選択決定時に与えられるネガティブフィードバックが影響する状況における不協和低減行動 古屋 佳子
- 教育実習生の信念に関する研究 木矢 晃子
- サイモンタスクを使用した抑制機能の検討 藤川 沙織
- 青年期の自己と他者の調整における自立した判断について 宮田 智代
- 意味および無意味な絵と音節の再記憶における加齢の影響 曾谷 恭子
- 大学生の一般学生と視覚障害学生に対する自己効力感の研究 伊藤麻美恵
- 援助要請行動に関する研究 宇野 貴人
- ADHD児における集団遊びへの参加支援 遠藤 敬代
- 大学生の環境問題に対する意識と保護行動の調査及び実験 金山 好美
- 河原 鞠子
- メタ認知を活性化させる相互作用からの検討
- 幼児の物語り理解における想像力の影響について 北尾 稔子
- 挿絵からの検討
- 老化による処理速度、抑制機能、処理資源の変化 坂元真由美
- リーディングスパンテストに与える影響からの分析 多田 理恵
- 折り紙作成による老人の説明能力について 仲 千鶴子
- 説明の質が課題完成に与える影響 多田 理恵
- 高齢者の知的機能の衰退を遅延させる方法とは何か 仲 千鶴子
- 看護管理職におけるバーンアウトの要因について 古屋 佳子
- 認知リハビリテーションによる高齢者の日常行動の改善 松本喜美代
- 看護職者のバーンアウトの要因 森田久美子
- 自己効力感と満足感の点からの分析
- 小学校のクラスにおける忘れ物に対するセルフマネジメント 山本 佳代
- 行動分析的アプローチ
- エモーショナルストレスが記憶に及ぼす影響 大久保太一
- 心理学、筆跡学、占星術による性格診断を装い、「誰にでも当てはまる文章」をフィードバックした時の受け入れの違いについて 三谷 光江
- 文学科 日本文学専攻
- 夏目漱石『虞美人草』論 秋永佳奈子
- 平林たい子「私は生きる」論 跡部 由香
- 辻仁成『白仏』論 荒井 健太
- 千年旅人な生き方 荒蒔 恵那
- 灰谷健次郎『兎の眼』論 荒蒔 恵那
- やさしい眼の教育 安久清一郎
- 黄表紙の笑い 安久清一郎
- 『親敵討腹巻』を題材にして 幾田 優子
- 「女教師」論 幾田 優子
- 徳田秋聲初期作品を問い直す 石田 裕美
- 和泉式部日記論 石田 裕美
- 和泉式部の人間像 井潤 多恵
- 『とりかへばや物語』女君論 井潤 多恵

川端康成の文体論

伊藤 千絵

「地獄変」論

寛 裕子

大江健三郎「芽むしり仔撃ち」論

座親万梨枝

「雪国」の比喩について

志賀直哉「小僧の神様」

加藤 歩美

色彩からみた『源氏物語』

芝崎 望奈

「とりかへばや物語」の作者像とフェミニズム問題

中世から近世にかけての芸能の変化

加藤 孝博

若菜の巻における色

清水いつか

『泥濘』論

稲本 志保

主として能・歌舞伎道成寺ものに見る中世と近世の芸能の違い

加藤 孝博

辻仁成論

関口 功二

泉鏡花「外科室」論

今植 明香

夏目漱石『こころ』論

金森 有香

梶井基次郎『檸檬』論

高橋奈津子

森鷗外「不思議な鏡」論

今福ちひろ

佐藤春夫「西班牙犬の家」論

鐘ヶ江律子

絵画としてのレモン

竹岡 直子

清少納言の自然観

岩崎あさみ

源氏物語研究

河邊 千春

芥川龍之介論

竹岡 直子

天象の描写を飛起として

源氏物語絵巻の女房たち

北川 直樹

「地獄変」を中心に

竹岡 直子

菊池寛『忠直卿行状記』論

岩崎美弥子

古事記の国譲り論

岸本 佳久

国木田独歩「運命論者」論

竹元 彩

芥川龍之介論

岩森 千尋

古事記の物語性と政治性

武者小路実篤「友情」論

「源氏物語」における「物の怪」について

田中 伸明

「地獄変」芸術至上主義について

大岡昇平論

北川 直樹

六条御息所をめぐって

田中 麻希

松本清張「点と線」論

植田 治男

永井荷風『溼東綺譚』論

北村真友子

『堤中納言物語』「虫愛づる姫君」成立の背景

田中 麻希

野上彌生子論

上西 由起

「落窪物語」の研究

木原 希望

描かれた異世界

谷本麻里子

初期作品における「明暗」の系譜

樋口一葉「わかれ道」論

久米 寿子

古代歌謡における国見歌論

津村 潤子

横光利一

内田 完爾

小川未明「野ばら」論

栗木 貴子

「八つの夜」における与謝野晶子児童文学論

月田 智子

「機械」のリアリティについて

「河海抄」論

古崎 恵

古事記第四十一番歌謡を中心に

津村 潤子

京極夏彦『嗤う伊右衛門』について

内田 吉彦

安部公房の『箱男』

小島 寛丈

芥川龍之介「神神の微笑」論

時田 美穂

寺山修司論

内海 鮎美

引用される和歌に関する考察

小室 裕美

梶井基次郎研究

鳥木 圭太

歌集『空には本』より

『河海抄』論

志向する意識について

サホビメ説話について

鳥木 圭太

歴史的な観点からみた谷崎潤一郎における西洋の

引用される和歌に関する考察

古和由佳里

主題と夢

中谷 純子

「月」と「水辺の女」について

大西麻衣子

菊池寛「真珠夫人」論

古和由佳里

泉鏡花論

中山 淳子

石川啄木「我等の一団と彼」論

岡田 悠佑

江戸川乱歩の世界

近藤 久美

『日本橋』を中心に

中山 淳子

『うたたね』の「音」

小川 直美

田村俊子「彼女の生活」論

阪上奈緒子

黙阿弥世話物の中の笑い

成田 泰子

赤瀬川原平について

沖野 暁宏

理想と現実の間で：田村俊子からのメッセージ

阪上奈緒子

岡本かの子論

西 香奈子

作品論『坊ちゃん』

荻野 純哉

理想と現実の間で：田村俊子からのメッセージ

阪上奈緒子

岡本かの子論

西 香奈子

枕詞の力

小椋由佳里

理想と現実の間で：田村俊子からのメッセージ

佐藤ひさき

「老妓抄」を中心に

西 香奈子

『万葉集』のうたに秘められた力を探る

竜安寺庭園論

佐藤ひさき

「老妓抄」を中心に

西 香奈子

『今とりかへばや』研究	二田 麻子	『源氏物語』の「髪」へのまなざし	宮塚寿美子	石川啄木『ローマ字日記』論	澤田 和弥
女君の自己・自我の変化		長谷川町子『サザエさん』論	宮本 佳織	私小説の可能性	
泉鏡花『高野聖』論	納富 裕子	枕草子「清少納言と中宮定子」	三好 博子	夏目漱石『行人』論	田宮 道代
登場人物の関係と心理		稲垣足穂『弥勒』論	藪田 昌子	古代文学における言霊の力	中山 英次
源氏物語絵巻の研究	野村 康代	『古事記』における人類起源伝承	藪本 修平	古代説話にみる鳥の信仰	貫野 昭代
『橘曙覧』論	羽田沙恵子	与謝野晶子『八つの夜』論	山口 佳奈	安部公房『砂の女』論	山田美和子
菊池寛『島原心中』論	花野 彩	河竹黙阿弥作「鑄掛松」の娯楽性	山口紗都子	その魅力を読み解く	
『白痴』について	羽野 暢	大伴旅人の望郷歌考	米沢 正吾	吉本ばなな『八子公の最後の恋人』について	藤岡 忍
『落窪物語』の研究	濱岡 知子	『精進魚類物語』の構造	龍池 玲奈		
あこぎについて		江戸文芸における天竺徳兵衛とその継承			
『源氏物語』の研究	濱田 美穂				
物怪に込められた紫式部の想い					
石川啄木論	早崎 雅子	村上春樹『ノルウェイの森』について	渡辺沙喜子	中島みゆきが伝えてきたもの	河野祐一郎
『鳥影』		『金子みすゞ』論	陳 世君	武者小路実篤『友情』について	小牟田憲一
歌舞伎、その受容の変遷	林 宏美	古井由吉論	笹木 充子	三島由紀夫『近代能楽集』「邯鄲」論	新妻 真史
天竺徳兵衛ものを一例として			雨宮 幸明	古代の信仰について	西岡 倫子
『枕草子の研究』	原 みづえ	『先導獣の話』について		『日本文化私観』論	西村 美穂
歌枕について				「必要」をめぐって	
『窓の教』攷	久野 絵史	夏目漱石『こころ』論	草野 早苗	村上春樹論	引地 衛
少年の心	福嶋 大輔	石川啄木『ローマ字日記』の真実	大工 史織	村上春樹が掘った井戸について	
『忘れえぬ人々』からの国木田独歩論		『古事記』に見られる「聖婚」	羽鳥有美子	近世文学における刑部姫伝説について	森崎 貴広
志賀直哉『暗夜行路』論	藤元 陽子	金子みすゞについて	林 淳子	夏目漱石後期三部作	山路 正憲
吉野弘論	細見 幸子	夏目漱石『夢十夜』論	平松 知子	尾崎翠『第七官界彷徨』論	林 香菜子
松本清張『或る』小倉日記』伝』論	前田 薫	梶井基次郎『檸檬』論	福井美奈子	志賀直哉の初期短篇	近藤 慎司
『母性保護論争解体』	正岡 敬野	宮澤賢治『どんぐりと山猫』論	山本 紀子	夏目漱石『夢十夜』論	辻 彰久
与謝野晶子の女性論に寄せて		魯迅『故郷』の原典と日本語翻訳の対照的研究	斎藤 正志	歌集『田園に死す』と映画『田園に死す』の間に	泉 裕子
近代語における「堪忍」「勘弁」の研究	松浦智洋子	万葉歌の花	梅木利恵子	横たわるもの	
三島由紀夫『午後の曳航』論	溝淵 麻紀	樋口一葉『十三夜』論	小野 美智	そこに見られる母への想い	大川 千佳
		中島らも論	木村 俊之	北條民雄論	
		啄木と白秋	小寺 雅美	深淵に瞬く「いのち」	
				澁澤龍彦後期小説	小菅千香子

「花妖記」を中心に

武士道について

太宰治論

『斜陽』を中心に

徳富蘆花『不如帰』論

徳富蘆花『不如帰』論

桃の具象

「連集良材」所収「桃源」をめぐって

文学科 中国文学専攻

『太平広記』における変身譚とその成立要因に関する一考察

白川・藤堂論争について

『隋唐演義』にみる人物観・君主観

魔都上海

中国人作家・茅盾 日本人作家・横光利一から見た

上海

中国古代と鳥

詩経における鳥の興について

『兒女英雄伝』十三妹について

日本刀を中心として

体験的直観について

老荘思想・禅宗等における認識論

桃源郷を構成する様々なアイテム

古代における中国女性の地位

桃花源記について

創作意図の有無を中心に

広瀬淡窓の教育思想について  
咸宜園の発展と魅力について探る

『金瓶梅』にみえる茶の役割

小説『紅樓夢』における女性崇拜について

史記の名場面

胡服騎射

『聊齋志異』の「狐」と蒲松齡

「史」という字の解釈の諸相

魯迅『故事新編』の作品性について

「摩羅詩力説」の意義

白玉楼伝説に象徴される李賀詩の陰と陽

元代色目人詩人・薩都刺の詩とその時代

湯頭祖「牡丹亭還魂記」について

杜麗娘像と夢

正史から考察する官渡の戦いについて

史記(晋)

驪姫の陰謀

宋美齡と蒋介石

台湾との関係

『三国志演義』戦闘場面における関羽・張飛

『西陽雜俎』の「葉限」から見るシンデレラ像

唐代の喫茶における「茶経」の意義について

釘宮 絢

倉田真由美

小林 恵子

斉藤 光一

洪谷 文義

下平 貴史

鈴木 実穂

高井季代子

高田 浩平

多田 壮希

田中 裕美

谷口 昌隆

津上憲太郎

辻井 寛子

中川 佳子

野村 純子

濱田 怜一

中国文学からみる仙女像

『紅樓夢』・『聊齋志異』を中心に

中国古典における「眞」字解釋

『紅樓夢』の女性の魅力について

中国と日本における「気」

『西遊記』における哪吒太子と紅孩児の類似性について

『喻世明言』第十卷「藤大尹鬼断家私」における藤大尹について

蕭紅 彼女が追い求めたもの

性善説について

儒家における中庸思想について

中国文学にみる冥土の世界

孔子の虚像

時代により生じた誤解釈

孫子・編年

莫言のマジックリアリズム

風水による都市構造と四方神の関わりについて

三国志演義における関羽の人物像

中国における足の性的価値観について

原しのぶ

星野 克行

前田亜都子

前田 修

松田 美佳

宮下 仁恒

村上 英里

森山 智子

矢崎文有子

吉嶋 紗保

吉本 淳

吉沢 法帰

大田 祐作

服部 諭

山村 朋宏

川本 朋子

文学科 英米文学専攻

Tomás H. Johnson, THE POEMS of Emily Dickinson

永遠の詩人

赤城 卓

- JANE EYRE 研究 新井 淳子  
英語公用語化論 池田真奈美
- Kazuo Ishiguro: An Artist of the Floating World 研究 石井 玲子  
人物考察を中心に
- Jane Austen Sense and Sensibility 研究 石川 沙織  
“sense”と“sensibility”の調和の問題について  
安徳の地’ 自由 石田 真澄  
A Tale of Two Cities
- THE SCARLET LETTER 研究 石森 彩  
くスターの処罰の歴史的背景 17世紀のニュー  
イアンランド
- Faulkner, William, The Sound and the Fury 研究 林 加耶  
南部の神話とフォークナーの女性像  
ウチマンの概念について 宇田川健人
- The Fall of the House of Usherの主題研究 梅山 庸子  
Bereniceの比較分析から 遠藤佳奈子  
認知メカニズムと表現 大木 規子
- The Picture of Dorian Gray 研究 大木 規子  
画像画の持つ意味とOscar Wildeの考へる芸術観
- The Usage of English Verbs: Come and Go 大熊 健一  
What the dog would like to be
- Edgar Allan Poe, “The Black Cat” 大城 要  
「私」に起因の「天邪鬼の精神」と「黒猫」とい  
う存在の関係についての考察
- E.M. Forster Where Angels Fear to Tread について Jane Eyre 研究 加藤 美里  
立命館大学文学部卒業論文題目
- いっ 大空 麻美  
“Ligeia” 研究 岡田 綾子  
巨大な意志力について  
英語教育における語彙指導法の研究 緒方秀一郎  
特に中学校段階において
- Charles Dickens’ Humor and Humanistic Approach: A Study of A Christmas Carol 小川珠代子  
Emma 研究 沖村 千鶴  
登場人物から探るEmmaの性格変化
- 言語と認知・思考の関係 奥住 彰子  
異言語間の概念体系と翻訳可能性
- Bernard Malamud, Pictures of Fidelman 研究 奥出 由衣  
Fidelmanの人生と芸術の関係性について
- The Joy Luck Club 研究 尾崎 美保  
母たちから娘たちへのメッセージとは  
小学校の英語教育について 小澤みどり  
音声英語の学習方法 鍵谷 直樹
- リスニング・リーディング・スピーキングにつ  
いて Farelly Mowat’s The Dog Who Wouldn’t Be: 片山 静香  
The Awakenig 研究 鬼頭 寿枝  
H.L.H.の自殺は最後の自己主張である
- Nathaniel Hawthorne, The Scarlet Letter 研究 可知亞希子  
Pearlの役割を中心に 加藤あゆ美  
受動態の制約と用い方 加藤 美里
- Jane Eyre 研究 加藤 美里
- Alice Walker’s The Color Purple 研究 金井 美涼  
Celieの変化  
Bernard Malamud, A New Life 研究 金村 裕子  
愛の推移を中心に  
A Room with a View 研究 上岡じずか  
Lucyが混乱から抜け出し真の自己を発見するま  
り
- 英語能格動詞の自他文替 亀田英一郎  
The Picture of Dorian Gray 研究 川島 康子  
Wildeの美術 Henryに投影されたもの
- Saul Bellow The Victim 研究 河西 麻美  
作者の描く人間像  
自然言語の理解について 河原由美子  
発話に添った(speech acts)の語用論的観点から  
の考察
- Mark Twain’s The Adventures of Huckleberry Finn アメリカ研究 神田 岳文  
なぜ日本で英語を学ぶのか 北本 徹平  
Toni Morrison 北山 恵理  
The Bluest Eye 研究  
A Room with a View 研究 木津谷千都  
Neesenの精神的成長と登場人物の関係
- The Awakening 研究 鬼頭 寿枝  
H.L.H.の自殺は最後の自己主張である
- The Catcher in the Rye 研究 木村 貴志  
AllieとHoldenの互いの影響
- Kate Chopin’s The Awakening 研究 楠橋 沙織  
Ednaの意識の過剰について

World's Fair 研究 Edgar の成長	國 文子	Jane Austen 研究 言語分析による性格論	佐々木 治	Philip Roth, Goodbye, Columbus 研究 光と影をまたらねたアメリカン・ドリームについて	田口 愛美
Great Expectations の研究	桑 孝直	イギリス英語とアメリカ英語の比較	佐々木涼子	Philip Roth's AMERICAN PASTRAL 研究 自分なことは何か	竹内 愛実
A Study of The Road Past Altamont by Gabrielle Roy	倉光 織江	Bernard Malamud, "Last Mohican" 研究	佐藤 佑子	情報のなわ張り距離 Henry James Daisy Miller 研究	竹下 晋代 田中 玲子
The Relationships Between Generations and The Cyclical Continuity of Life		フレイトマンの成長とインプリントの芸術観との関係について		E.M. Forster SA Room with a View 研究 振動ないんばの Daisy の Innocent 性	谷垣 弥生
"Young Goodman Brown" 研究 埋性の本能	倉本 茜	メタファーとメタリミーの重要性	神農あかり	The Great Gatsby 研究 夢の夢れと夢れ	玉井 千尋
GEORGE RYGAS THE ECSTASY OF RITA		The Picture of Dorian Gray 研究	重里真紗子	Bernard Malamud The Fixer 研究 苦悶と再生	玉理 直之
JOE: A Tragedy of Native Canadians and the Social Context in Canada	黒川 映里	選択体系機能理論に基づくメッセージの伝達	鈴木恵梨奈	'William Wilson' 研究 中心人物の Wilson の存在にのみ William	塚口 涼子
Earnest Hemingway, The Sun Also Rises 著	慶元 崇紘	テクスト形成的機能について	鈴木華奈恵	Wilson の隠微 tough 構文	塚本 和久 土田 香織
虚無の世界に於ける Jake の認識の姿態		日英語比較	鈴木 里奈	Edgar Allan Poe Morella 研究 第 II の Morella の役割	角田亜沙美
母親の魅力の真相	河野 祥子	Muriel Spark, Memento Mori 研究	瀬尾あゆむ	変わる者の交わるる者の Philippa Pecece の Tom's Midnight Garden における	
ホールとモレル夫人の場合		老いをめぐる人間のあがき		「時間」の考察 Edgar A. Poe Al Aaraaf 研究	手塚 祥太
Oscar Wilde 研究	小坂 健大	A study of Margaret Atwood's The Blind Assassin	芹澤 恵美	Poe の「共感覚」 Kate Chopin The Awakening 研究	寺崎 妙子
反社会性について考察		言語獲得理論	相馬 未未	Edna の行状着いた場所	
The picture of Dorian Gray を中心として		言語能力の生得性	高田 貴未		
英語における言語と性差	殊井 亮治	Jane Eyer 研究	高橋 聖司		
Henry James The Portrait of a Lady 研究	小林 正幸	Jane の成長について	高橋 真理恵		
Isabel の意味と成長		人間の能力と「社会力」			
Edgar Allan Poe 研究 "William Wilson"		Edgar Allan Poe 研究			
第 II の Wilson の役割を中心に	佐伯まじり	探偵の作法			
メタファーとメタリミーとユニークなトキ	坂井 由佳	W. SOMERSET MAUGHAM, Of Human Bondage 研究	高原 怜美		
Toni Morrison の Jazz について	坂本 奈穂	人生とは何か			
Jazz について愛とアイデンティティの関係					



Ernest Hemingway "The Snows of Kilimanjaro"	道徳的腐敗と主人公の死	寺本真理子	Anzia Yezievska 研究	ユダヤ人女性のアメリカン・ユートピア追求	中本 智子	Margaret Craven: A Study of I Heard The Owl	Call My Name	平田 美香	
The Roles Language Plays in Our Society		東保 恵美	Bairnlingerisms および第一言語としての英語	得たこと	永井 昌子	Saul Bellow 研究	The Victim 研究	犠牲者とは一体何であるのか。レウエンサルの犠	福井 章子
Kate Chopin The Awakening 研究		十九川幸恵	Theodore Dreiser Sister Carrie 研究	Carrie の悲劇について	長澤 恭子	HARD TIMES 研究	Bernard Malamud, The Natural 研究	本作品から我々を学ばせよう	藤田 俊輝
Oscar Wilde 研究		轟木ゆかり	Edgar Allan Poe "The Black Cat"	語り手の動因とフットローとの関係	並松 洋史	The Great Gatsby 研究	Francis Scott Fitzgerald Nick Carraway の視点	東部と西部、富の問題	藤本 壮一郎
"Miss Grief" 研究		豊岡 恵	Saul Bellow The Victim 研究	主人公のおかれた特異な状況から見えてくる誰もが共有する人間感情について	西村 華林	Lolita 研究	影の存在 (ハンバートとキルティ) の関係を通		政本真友子
Kenneth Grahame's "The Wind in the Willows": His Struggle with an Industrialized Homeland		土井 佳世	Theodore Dreiser の Sister Carrie 研究	Carrie の幸福追求について	西村 次代	A Room with a View 研究	Lucy の精神的成長		真柴由由美
A Tale of Two Cities		中 幸恵	Saul Bellow 研究	Seize the Day の Wilhelm の生き方	西村 幸	J. D. Salinger, Franny and Zooey 研究	進こを超越した世界としての The Fat Lady		松尾早希子
Sydney Carton 研究		中島 治	Sense and Sensibility 研究	E. M. Forster A Passage to India 研究	野村美千子	Henry David Thoreau 研究	Walden におけるローの自然観		松本 邦稔
Toni Morrison The Bluest Eye 研究		中嶋 理絵	Little Women 研究	Jo の成長	橋本 房枝	Bram Stoker 研究	Dracula で描かれた恐怖と性意識		満生 奈穂
美の価値を問う Claudia		中田 真介	Oscar Wilde の The Picture of Dorian Gray 研究	Dorian の人生における Wilde の理想	花堂麻理子	オーストラリアの英語について	Charles Dickens Great Expectations 研究		光石 佳史
Heart of Darkness 研究		中田 智也	認知言語学による Rover の分析とその妥当性	全く異なる意味を「語り表す」ことが出来るのか	濱 英理香	Arthur Miller Death of a Salesman 研究			三原 絵梨
Nathaniel Hawthorne "Rappaccini's Daughter" 研究		中村 未里							
「毒娘の伝説」と若く二人の愛の行方									

- 三原 庸平 「サールスマンの死」が意味するもの  
 A Room with a View 研究 向井ゆづり  
 Forsterの思想と結末の意味  
 Toni Morrison, The Bluest Eye 研究 向井優志朗  
 白人優越社会に生きる黒人たち  
 A Tale of Two Cities 研究 桃野 文寿  
 E.M. Forster A Room with a View 研究 森 香苗  
 Old EmersonがLucyに与える影響について  
 “The Minister’s Black Veil” 研究 森 加代子  
 ホールのト  
 E.M. Forster Where Angels Fear to Tread 研究 森井恵里子  
 フロリッパ・マボット嬢の失敗とその理由  
 Henry James The Wings of the Dove 研究 森田かおり  
 翼を広げた鳩の軌跡  
 Theodore Dreiser Sister Carrie 研究 森西 友子  
 最後に残ったCarrieの姿について  
 Mark Twain 研究 森本 絵美  
 Huckの成長  
 Roch Carrier: A Study of The Hockey Sweater and other stories 八川 香代  
 “Miss Grief” 研究 山口 知里  
 男性優位社会に対するMiss Griefの挑戦  
 日本の英語教育について 山下 宏美  
 じわじわの英語教育にまつるもの  
 The House of Mirth 研究 山田ゆかり  
 ヒューの「精神の共和国」
- 「William Willson」研究 山村 慶季  
 「ウィリアム・ワイルソン」に見るボオの人間性  
 William Saroyan, The Human Comedy に関する作  
 者の思想 山本 愛  
 人間とトーキョーについて  
 The Cather in the Rye 研究 山本 洋子  
 赤いハンチング帽の役割  
 Pride and Prejudice 研究 吉村 妙  
 Elizabethの結婚観を中心  
 英語と日本語の地域差とその行方について  
 Lord of the Flies について 米 美和子  
 闇に対するトルライニングの視線  
 Frankenstein 研究 斉城 直子  
 知を欲する主題  
 「言語の獲得と概念の発達について」  
 『二都物語』における自己犠牲 高田 周史  
 フランス革命という時流の中で  
 The Old Curiosity Shop 研究 中井 良一  
 主人公Nellの悲劇が示すもの  
 Death of a Salesman 研究 駒場 拓司  
 その魅力とは何か  
 Amy Tan, The Joy Luck Club 研究 鈴木麻祐子  
 アメリカ社会における母娘関係について  
 The Grapes of Wrath 研究 依藤 祐介  
 John Steinbeckの人間観  
 E.M. Forster A Room with a View 研究 赤井 恵美  
 作者が訴える理想とその現実について
- 受験英語の弊害とこれからの英語教育の展望につ  
 いて 池田 直樹  
 言語の獲得と英語教育について 尾崎 祐子  
 英語の早期教育の是非を中心に  
 Toni Morrison The Bluest Eye 研究 谷本麻由美  
 白人優越社会に生きるトーラの悲劇について  
 Mark Twain, Adventures of Huckleberry Finn 研  
 究 津久田 玲  
 Huckの精神的成長について  
 Charles Dickens 研究 富山 和紀  
 Great Expectationsから見たPipと女性たちの  
 心  
 早すぎる埋葬の面白味 羽床 朋美  
 マンチャー家の詩と死の芸術から学ぶもの  
 The Adventures of Huckleberry Finn 研究 三野祐美子  
 自由獲得の道  
 E.M. Forster A Room with a View 森田真由子  
 主人公Lucyの精神的成長について  
 Jane Eyre 研究 石川 千晴  
 Janeの自己表現  
 Ralph Ellison: A Study of Invisible Man 嶋田 理恵  
 “The Yellow Wall-Paper” 研究 鶴城 涼子  
 「私」とGilmanを通じた考察と仕事の意味  
 二重目的語構文における意味制約について 大治 道子  
 Bernard Malamud’s Dubin’s Lives 研究 大藪 朝子  
 三人の女性について

Margaret Atwood's The Handmaid's Tale:

Dystopia, Feminism and History 奥野みち子

Chales Dickens's Great Expectations

Sayoko Koyama

A Study of the Covict in Dickens's Novel

Oliver Twist 佐々木明穂

社会小説としての意義

Bernard Malamud's The Tenants 清水ひとみ

血口の中の他郷としての

Lucy Maud Montgomery's Emily of New Moon:

Allusions to Celtic Mythology and the Bible

渡辺恵美子

冠詞の用法について

The Great Gatsby 研究 菅原 信子

Walt-Whitman 研究 浅原 美樹

Whitmanの詩に潜む心理的側面の追求

“The Short Happy Life of Francis Macomber” 研究 飯田 拓郎

黒澤 悠喜

男性としての自我確立 恐怖が消えたとき

Emily Carr Klee Wyck: 島村 崇広

カーが先住民文化に着かれた理由は何か

A Study of the Poems of William Butler Yeats:

“The Stolen Child” and “Nineteen Hundred and Nineteen” 角田 大祐

日英語の指示詞について 田村 直行

指示詞による日英語の談話構造の比較

移動変形について 仲内 孝之

The Great Gatsby 研究 永田 優子

車が象徴するもの

認知とメタファー

E.M. Forster Howards Endの研究

Schlegel 姉妹にみられるForsterの思想

ディムステイルの死という結末の意味

The Scarlet Letter 研究

英語法助動詞の研究

史学科 日本史学専攻

戦国武家社会の女性の地位

毛利家を中心

町会所を中心とする祇園会・山鉾町の動き

明治〜大正の日本料理人

平安貴族社会における色の観念

室町殿と公家

義政期を中心に

日韓併合時における対韓国皇室政策

李王家成立過程を中心に

古代の神宮寺

地方宗教行政の視点から

昭和一五年近衛新体制運動の展開

近衛「新党」から「国民再組織」へ

間引き・墮胎にみる近世の子ども観

日露戦争と映画

ドラフトから見えるもの

成年と未成年をめぐって

戦後日本における「家族計画運動」についての

考察 大田 真彦

「専門家による規律」によって形成される「断

罪される主体」としての女性

近代日本の学校における体育・スポーツ教育と

サッカー Jリーグの地域密着型クラブシステム

室町期における「礼」について 大西 洋平

書札から考える

近世の人形浄瑠璃 荻田奈緒子

中・近世移行期村落を中心とする兵農関係

平安期における「恋愛」と婚姻 奥 昌憲

『今昔物語集』の分析を中心に 奥本 陽子

日本の対外観 乙部 恭代

革新官僚に関する考察

岸信介の台頭について 小山 晴美

肖像画にみる日本人の坐俗性 柏田 有香

近畿地方における阿波系土器の展開 金森 里美

平安後期・鎌倉期における寺院政策

公家新制の条文を中心に 川口 朋子

京都御苑の機能的変遷

京都御苑における「憩い」について 川田 幸平

サッカーの普及と人気の溝

野球との比較を通じて

理化学研究所の科学的意義に関する考察

基地問題と観光から沖縄を考える

城戸 弦太

金城 大輔

儀式書から見る津和野藩神葬祭運動の特質

寺口忍海古墳群を中心に

近畿地方を中心として

近代化された「日常」と「身体」  
生活レベルからの民衆史

中世王権を支える三種の神器  
中世猿楽における「場」の問題  
親鸞の思想研究における現状と課題  
平氏家人と在地支配

谷口 朝香  
田野 葉月  
辻村潤一郎  
津田 誠

角閃石安山岩削石積石室に関する考察  
長崎丸事件について  
後北条氏の流通支配について  
関宿を中心に

根岸 正幸  
平嶋 拓人  
平野 麗

真宗教団における戦時報国体制について

足利将軍家における同朋衆  
特に成立時期を中心として

坪井 史晴

中世における蛇信仰

平松 朝子

自由主義史観の思想

戦国時代における被差別民支配

大阪湾岸地域における脚台式土器製塩の様相

露本 和也

戦後日本における戦争責任論の言説的考察

廣田 敬吾

今川氏・後北条氏を中心に

八世紀代の太宰府について

横櫛の変遷についての考察  
古代の都を対象として

所 香織

仏師定朝「本様」化の過程  
平安後期における評価とその変容

藤井 洋

蓋・坏形態をもとにした考察

近世における「来世」観について

近世における砂糖  
甘味が社会にもたらしたもの

豊田 紗代

満州映画協会の抱えた矛盾  
江戸時代の民衆と能楽

古川真知子  
堀 奈月

室町幕府直轄軍について

奉公衆を中心に

初期議會期における元老たちの政党観  
明治期の図画教育  
上阪雅之助の図画教育論を中心に

中田 香澄  
中西 智仁

明治・大正期における奈良県の初期水平社運動  
撰閣期陣定の歴史的役割  
道長執政期を中心に

堀内 和弘  
松野 由佳

古代都城における清浄性維持

中世の曆について

戦争未亡人に関する考察  
京都府における事例を中心に

永岡 彩子

幼保一元化についての一考察  
戦前・戦後の幼保一元化論を中心に

松本 至正

三島曆を中心にして

中世前期における女性の立場

鎌倉幕府成立期における政治秩序の形成  
「武家の棟梁」論再考

滑川 敦子

京都の博覧会を覗く  
戦後の歴史教育と二・一一  
平安期における葬制

松本 喜彦  
三浦 清和  
三浦 優子

姦通問題から見る妻の位置

瀬戸内海沿岸荘園の経済活動について

平安末・鎌倉期における熊野別当家  
鎌倉幕府との関係を中心に

成沢 直子

殺生禁断令から伐木禁制への移行に関する一考察  
説話の中の「死」表現

水谷 元則  
宮川 枝里

沼田荘・小早川氏を中心として

江戸時代における女性の結髪について

国家祭祀における伊勢神宮と齋宮  
賀茂斎院との比較において

西井 康貴

吉原の遊女について  
律令国家による地方支配  
九世紀の民部省勸会を中心に

宮川 枝里  
三宅由利子

女髷の発達を中心に

中世の女性労働

近世近代の同性愛について  
正常と異常の境界史

西五辻顕子

服飾産業とファッションの歴史  
縄文時代の貯蔵穴

宮腰日香里

商工業活動を中心に

近畿地方における「庄内式」土器群の展開とその

正常と異常の境界史

西口 和宏

琉球・人頭税をめぐる一考察

宮腰日香里

実相

田中 元浩

服飾産業とファッションの歴史

西村 友一

琉球・人頭税をめぐる一考察

宮腰日香里

群集墳の階層性

田中 理絵

縄文時代の貯蔵穴

西村 友一

琉球・人頭税をめぐる一考察

宮腰日香里

クブラ・バリ、トゥングーダ伝説の変容

払い事件を中心に

土谷 崇夫

窯道具から見る法蔵寺鳴滝乾山窯の一考察

上西門院と八条院

早田 里佳

翻訳の思考

小林秀雄「宣長論」その永遠なる「反復」の

戦国大名島津氏について

宮本 梓

院政期における女院の機能について

福山 武志

様式

福沢諭吉における秩序観の考察

安井 幸雄

土地制度を中心に

塙から見た役割

日本中世画派の動き

吉川 武宏

京大・沢柳事件における沢柳政太郎の語られ方

「シシプロシチ」から「官民調和論」まで

安井 幸雄

御用絵師と絵所預を通じて

吉田 仁

近世京都惣構・御土居堀の研究

船勢 肇

考古学からの壁土研究

安江 公平

スポーツの普及とスポーツ観戦

米澤 一智

考古学的研究を中心に

水上 哲治

中世における「銭湯」の出現と展開

安田 弥生

「狂」の研究

金 龍坤

斉明朝・天智朝における額田王の役割

山谷 幸絵

「日本の朝鮮支配の本質」への接近

山本 博昭

古代・中世前期にかけて

万葉歌を中心に

佐々又兵衛の再評価

「北野天神縁起絵巻」に関する一考察

三森 靖子

文化的差異から見る明治期の日朝外交に関する一考察

吉本 晃士

明治初期における日本刀

加藤 和也

循環型社会としての近世

浄泉 美幸

(1882-1884年の金王均の借款募集を中心に)

西南戦争から考察して

秋山 貴志

都市におけるごみ処理を中心に

吉田ひろみ

近畿地方における古墳の葺石構築法の検討

萩原 俊樹

幕末の欧米人から見た日本

加藤 和也

中世武家社会における女性の所領相続

吉田ひろみ

近代の婦人労働者

井口 有里

ドイツ宰相ビスマルクの叙勲を中心に

秋山 貴志

近世初期風俗画を通して新しい文化の息吹きをよむ

藤田 佳史

紡績女工からみる女性の社会進出について

萩原 俊樹

「家」の存続に関わる女性の出家について

安部 博文

岩佐又兵衛の再評価

藤田 佳史

幕末維新期における草莽隊の性格分類について

茨城 和良

伏見宮家を中心に

栗野ゆかり

加賀一向一揆にみる一向一揆の実態

石見 知秀

加藤典洋の『敗戦後論』、『戦後の思考』を読む

渡部 幸

総評賃金綱領と組織闘争

川上 勝義

バスケットボールの歴史

金本 昌子

上記二つの書物、及びそれ以降の同氏の書物を手がかりに、今後の日本の謝罪の論理、戦争責任はどうかあるべきか、を探る

聖武天皇と紫香楽宮

質金闘争の視点から

坂元素代子

湖東式軒瓦の源流

松浦 広明

明治後期における日系ハワイ移民に起った問題の諸相について

田中 和也

延暦寺大衆の構成と歴史的变化

高橋 秀明

政府の課税管轄権とグローバリゼーション

浅野 康子

1900(明治33)年のホノルルベスト予防焼き

堂衆の身分を中心に

中部高地における後晩期の石鏝の地域性について

丹波 寿一

を例に

鈴木 泰平

- 佐田介石の経済学 手嶋 慶太
- 平安時代の対外交渉 堀井 束
- 古墳時代の衣服について 中村 靖永
- 近世京都の農具鍛冶について 池井 大輔
- 政治家としての源実朝像 加藤優美子
- 和歌との関わりを中心に 古川 直
- 中世における海民の動向 古川 直
- 若狭多烏浦と奥能登時国家を中心に 若狭多烏浦と奥能登時国家を中心に
- 六世紀後半から七世紀における日本の対朝鮮外交 榊原 良
- 謙倉時代土地売券にみる銭貨流通の実態 田中 康幸
- 撰津・紀伊国における事例分析を中心として 天田 茂
- 明智光秀像の変遷 天田 茂
- 縁の地と芸能文化の世界にみる光秀幻影の考察 福嶋 雅子
- 幕末維新期の婚姻関係について 福嶋 雅子
- 島津家と近衛家を中心に 福嶋 雅子
- 史学科 東洋史学専攻
- 古代中国の塩 天野 雄介
- 唐代美人観と女性像 岩本 玲子
- 妓女・イデオロギー・イズムの影響 岡本 郁織
- 女真族の経済生活 岡本 郁織
- 中国茶 小川 珠季
- 烏龍茶の起源について 小川 珠季
- 『列仙伝』にみる神仙観 喜多 勇介
- 宋代の妓女 葛葉 礼
- 女媧 久保 藍子
- 孔子小論 倉谷 誠
- 宋都・開封の空間と配置 小堀 恭代
- 陶行知の知識観 後藤さおり
- 「偽知識」・「真知識」をめぐる考察 後藤さおり
- 近現代の日中関係について 阪口 和也
- 中国における社会主義への移行の問題 指方 倫人
- 張居正文量の意義再考 佐藤 邦彦
- 特に丈量と一条鞭法の関係について 佐藤 邦彦
- 清末（民国時代の会党について） 佐藤 正明
- ベトナム東遊運動をめぐる日本人々 澤崎 瞳
- 日清戦争前後の日清関係 澁谷 剛人
- 『孫子』に見える軍隊、戦争の具体像 菅 啓佑
- 中国の地域格差 瀨社家佳代
- 現代中国の教育格差を中心として 菅 啓佑
- 北鎮の乱の背景について 高木 隆成
- 前漢における財政思想と国家理念 竹沢 進
- 商業論と農業論 竹沢 進
- 三国時代の名士と皇帝の関係の地域差について 武淵 美春
- 孫文の人民観 谷元 悠
- 前漢の西域地方の位置づけ 田村 真路
- 宋代都市水利 辻 陽介
- 国都の上水問題をを中心に 辻 陽介
- 軍士の布帛給与 遠山 寛之
- 唐宋時代の春冬衣について 遠山 寛之
- シンガポール・マレーシアにおける華僑・華人問題 中 正大
- 客家の土楼について 中井 千佳
- 『魏書』東夷伝にみる倭人観 中津佐和子
- 華僑移民史における苦力貿易について 中坊 裕
- 清代における家族制度 中本 篤祥
- 延安における京劇 長濱 訓子
- 中国の環境問題 浜田 紘彰
- 宋代の仏教制度 板東 真澄
- 度牒制度を中心に 板東 真澄
- 王安石新法挫折の諸原因 平野 敏弘
- 新法派官僚の分析を通じて 平野 敏弘
- アヘン戦争と林則徐 堀池 亮行
- 匈奴南北分裂考 松島 隆真
- 君長権を中心とした考察 松島 隆真
- インド更紗 赤色染織の変遷 宮地 麗
- イギリスのインド統治とキャラコ 宮地 麗
- 嗣について 森岡 功明
- 西周金文を用いた一考察 森岡 功明
- 清末中国における日本観について 山田 慎吾
- 黄遵憲を中心に 山田 慎吾
- 人民日報に見る大躍進運動 吉田 真崇
- 中華民国前期の芸術観 吉村 成広
- 芸術復興への過程 吉村 成広
- 南宋代における荒政についての一考察 渡部 洋
- 知漢陽軍黃榦の事蹟を中心に 渡部 洋
- ナガチユ親子を通して見た元末明初の政治状況 上田 竜也
- 中国における「建築」の変遷 森川 桂子
- 梁思成を中心に 森川 桂子

蚩尤神について 戸塚 愛野  
 鄭成功について 堀 兼三  
 六朝門閥貴族の自画像 田中 千  
 琅邪王氏を中心に  
 明律における「出外境」の矛盾について 中村菜穂子  
 海上活動を中心に 福井 貴子  
 台湾祠廟建立に見る漢人社会の形成 大西 洋全  
 毛沢東と紅軍 加納 真実  
 中国歴史教科書にみる日本人像 重松雄一郎  
 客家の形成について 蛇見 尚吾  
 唐代長安の市 東光 泰典  
 抗日民族統一戦線の形成過程について 友清 拓哉  
 南宋初期軍事勢力の補給について 松井 伊織  
 唐代長安の食文化 三好 治  
 南宋成立期における政治過程について 朴 鐘浩  
 李朝書院史における一考察 笹井富士子  
 書芸術における王羲之と唐・太宗について 水口 通代

儒教社会と女性 矢野 龍洋  
 フットボールとアマチュアリズム 内田 隆洋  
 ドイツにおける社会国家の形成 内田 有香  
 政治から見る優生学 江夏 沙苗  
 ヒットタイトの宗教政策 岡 真由美  
 同時多発テロ後のアメリカ合衆国とメディア 岡 真由美  
 愛国主義とメディアの関係 岡尾 康行  
 スポーツのグローバリゼーションとローカリゼーション 奥田 可奈  
 魔女狩りからよめる女性 川合 麻実  
 近代競馬システムとイギリス帝国主義精神 加藤 勉  
 女性文化はいかに存在したか 吉田いつか  
 アメリカにおけるインディアンが目指す「自治」とは何か、またその問題点について 川合 麻実  
 「生かされる」「社会から」「生きる」社会の時代へ 川合 麻実

グローバル社会におけるオランダ型政策制度の可能性 経塚 千章  
 戦争とナショナリズム形成 経塚 千章  
 現代社会体制における戦争の役割 経塚 千章  
 ジョマイカにおけるラスタファリアニズムの歴史 岸本 将志  
 的意義について 岸本 将志  
 前八世紀のギリシアにおける埋葬形態と社会 小谷 望  
 ボリスの成立との関連 小谷 望  
 英国における地域ナショナリズムは連合王国の分離主義か 小原 隆史

疫病コレラと民衆 石井 直  
 アメリカ映画に見る黒人の描写とその変容 磯貝 美佳  
 1960年代から2002年まで 磯貝 美佳  
 国民統合としてのナショナル・トラストの変遷とともに考察する 松本 美樹

ナチス・ドイツ統制下におけるプロパガンダの影

食をとおしてみる近代の全体像

中世の結婚 藤原 五月  
 バロック芸術の大衆教化戦略 増田 有美  
 バロック・ローマの美術と「聖年」の関わり 増田 有美  
 を中心に

アイランドにおける女神の変貌 橋本 嘉弘  
 ケルトと信仰の継承 原 桃子  
 ハンニバルの政治姿勢 福岡 剛史  
 地中海世界大の視野とカルタゴにおける改革 藤田 奈々  
 自由を望んだエリザベート 藤田 奈々  
 ハンガリーに執着した女性 藤田 奈々

その過程と歴史的意義 成田 絢子  
 フランス革命における国王処刑の意味 成田 絢子  
 カナダ多文化主義政策に関わる新移民の問題点 橋爪 規美  
 過去と現代における優性学的思想の比較 橋爪 規美

大航海時代をもたらしたもの 竹澤 昌利  
 共和政期ローマのイタリア支配 柘植 敬  
 スウェーデンの中立政策の変遷 土橋 潤二

パレスチナ和平のために必要とされるアメリカ合衆国の政策転換 小山 孝平  
 十八世紀～十九世紀のヨーロッパにおける音楽基盤の変化とその背景 崔 泰憲  
 不平等と支配システム 佐竹 裕司  
 近世スペインのナショナリズムとカトリシズム 城内 康宏

大航海時代をもちいたもの 竹澤 昌利  
 共和政期ローマのイタリア支配 柘植 敬  
 スウェーデンの中立政策の変遷 土橋 潤二

その過程と歴史的意義 成田 絢子  
 フランス革命における国王処刑の意味 成田 絢子  
 カナダ多文化主義政策に関わる新移民の問題点 橋爪 規美  
 過去と現代における優性学的思想の比較 橋爪 規美

アイランドにおける女神の変貌 橋本 嘉弘  
 ケルトと信仰の継承 原 桃子  
 ハンニバルの政治姿勢 福岡 剛史  
 地中海世界大の視野とカルタゴにおける改革 藤田 奈々  
 自由を望んだエリザベート 藤田 奈々  
 ハンガリーに執着した女性 藤田 奈々

## 響

村山 次郎

融合と矛盾

高木 宏昌

ガイドブックにみる観光地・京都のイメージの考察

アステカの安定要因としての経済活動

森北 能康

道化の特徴と役割を通して

高橋 寛

亀岡市千歳町小字中村において見られた灌漑水利上の工夫 泉井 秀二

魔女狩り研究史の展開

八十瀬匡洋

魔女狩り、魔女現象の再解釈

高橋 寛

異端審問、サバトの研究からの再検討

カエサルへの権力獲得と政治

吉田 晃洋

中世スペインにおける三宗教の共存について

堀 美保

性差からみた名古屋大都市圏における通勤の発生・吸収パターン 伊藤 永

共和政末期ローマ史の視点から

インドネシアの民主化

中村 洋輔

敗北から学び得たもの

横田 敏充

京阪奈地域における時間距離地図化の試みとその考察 伊戸川 篤

子ども観の変化

池田 裕美

とりわけ近代スポーツ・ワールドカップから

吉川 健太

京都市の通勤・通学交通による二酸化炭素排出量の推定 井上 真洋

ヴァイキング社会における秩序のかたち

落合 美幸

意図派と機能派の論争を手がかりに

今泉 暁

大阪湾岸地域における土地条件評価に関する研究 井ノ元宣嗣

中世アイスランドにおける「個人」

新谷 奈生

フットボール・フリーガンとはなにか

今泉 暁

この止むことのない暴力現象をめぐって

結婚・嫁資・相続

ブッカー・T・ワシントンの融和的路線

山中健太郎

第二次世界大戦後のアメリカ合衆国とベトナム戦争についての総合的考察

鷹野 孝

泉州地域のアウトレットモールを例として

イギリスにおける産業革命と余暇観の変貌

窪島 結子

カール大帝の民衆教化

矢島 節子

京都市11区におけるファミリレストランの立地展開 上野 昌一

祝祭からレジャーへ

ユダヤ戦争以前におけるローマ帝国の対ユダヤ宗教政策とユダヤ人憎悪について

糸井多規子

ナチス・ドイツと青少年

大西 賢

四条河原町商店街利用の特徴 京都の風土と慣習に注目して 上林 佐季

空間の重層性と「ホームレス」

大村 陽一

アイルランドにおける「ティンカー」の変遷

橋本 淳一

大学立地に関する都市化の影響 名古屋大都市圏を例として 梅原 直子

新漂流民の誕生

フランスの移民問題について

河西 熙

地理学科 地理学専攻

赤木 慈代

東京における大学生が抱く「街イメージ」の分析 遠藤 宏志

その歴史化・ロマンス化の要因と影響

近代国民国家形成期に戦争の果たした役割

山田 雅人

倉敷駅前中心商店街の変化に伴う来街者の行動特性

赤木 慈代

少子化時代における大都市の子育て支援の展開について 大岩 直子

マヤ文明古典期の繁栄と衰退

伊藤 求

播磨南部地域におけるスーパーマーケットの立地展開について

新井 敬裕

大阪の特産物「水なす」の泉佐野市における産地形成 大植 律子

交易ルートと諸都市の盛衰

農耕的祝祭（カーニバル）とキリスト教的祝祭の

飯島 瞳

神戸市北区における宅地・土地開発について

飯島 瞳

香川県における雨乞いの習俗について



大西市におけるひつたくりの分布パターン	大西 絢子	大長崎論・市域拡張に着目して	京都市における大規模小売店舗(旧大店法下)の立地展開	鈴木 理恵
鉄道新線が地域にもたらす影響と利用者意識	岡崎 哲	首都圏における周辺中核都市の特性と地域構造の変化	横浜市における保育所の立地特性	染谷 美穂
第三セクター井原鉄道の事例	岡本 浩之	郊外住宅団地における居住地選択行動	都筑区と青葉区を事例として	京都市南部における九条ねぎ生産の立地展開
変貌する地域交通体系と住民行動への影響	岡本 実	広島市安佐南区を事例に	京都市における下宿環境の変遷と自宅生の分布について	高木 亨
兵庫県東播磨地域を例に	岡本 実	京都市丹後地域を事例として	宇部市中心商店街における構造変化	竹内 広明
京都市におけるオフィスビルの立地と地域特性	奥村 大樹	城崎温泉の観光特性と集落構造に関する研究	京都市の地理的空間とメンタルマップ	田中 宏明
京都市における宿泊施設の立地	奥山久美子	町村合併による地域構造の変容	立命館大学生の認知空間	京都市南区における街区公園の立地展開
中国山地地すべり地における土地利用	尾坂 宏樹	京都市における高齢者福祉施設の立地展開	消費者の行動と商店街の実態	地方都市における中心市街地の活性化策
地方都市における地域構造の変容	笠原 裕史	福井県大野市を事例に	山口市街中心商店街	米子市中心商店街から
兵庫県篠山市の商業環境を例に	片岡 晶代	京都市における都市近郊農家の経営形態	児童の遊び行動からみた空間認知の発達	長野市における宿泊施設の分布と変容
富山県新湊漁港における漁船の係留と漁具倉庫について	片岡 晶代	京都市における都市近郊農家の経営形態	中山間地域活性化の考察	西陣地域の変容
岡山県津山市における大型スーパー出店による中心商店街への影響	金嶋 沙織	京都市における都市近郊農家の経営形態	山口県光市立光井小学校の場合	京都市都心部の空間利用と色彩構造
草津市居住者による婦人服の購買地選択に関する考察	川熊 悟	京都市における都市近郊農家の経営形態	京都府綴喜郡井手町を事例として	大津市におけるコンビニエンスストアの立地分析
京都市におけるガソリンスタンドの土地展開	川本 大史	京都市における都市近郊農家の経営形態	神戸・元町商店街の地域区分	GISによる郵便施設の最適立地問題
山村地域におけるグリーン・ツーリズムの進展	木村 彰利	京都市における都市近郊農家の経営形態	京阪神大都市圏の社会・経済的地域構造	京都市都心三区を事例に
京都府美山町を事例として	久保 諭史	京都市における都市近郊農家の経営形態	京都市における都市近郊農家の経営形態	成田市の門前町における構造とその機能
首都圏と近畿圏のマンシヨン供給	桑原宏一郎	京都市における都市近郊農家の経営形態	京都市における都市近郊農家の経営形態	大都市近郊地域におけるショッピング・センターの複合化について
近代京都における製材工場の立地とその展開	木場 篤	京都市における都市近郊農家の経営形態	京都市における都市近郊農家の経営形態	内部構成を例に
千本通・嵯峨野周辺を例として	北海道十勝支庁を事例として	京都市における都市近郊農家の経営形態	京都市における都市近郊農家の経営形態	公共交通網からみたアクセシビリティ
長崎市における市域をめぐる抗争	白井 憲一	京都市における都市近郊農家の経営形態	京都市における都市近郊農家の経営形態	西垣 宏之

京都市を例として

都市周辺地域における土地利用の変化 西澤 崇裕

大阪市浪速区・西成区を事例に

京都市における高齢者福祉施設の立地展開 西本 寿士

京都市の近郊農業と振り売り 野口 千絵

鷹峯地区を例として

宇治茶業の再生 橋本 歩

京都府宇治市を例として

和歌山県白浜町における温泉観光の推移と特性 蓮井 庸介

大学周辺地域の商業立地と学生の通学ルート

立命館大学をもとに 長谷川隆之

中心地間の時間距離からみた階層変化 畠山 修

長野県長野盆地を例として

震災時における救急活動に関する研究 原澤 亮太

名古屋市天白川流域を事例として

交通体系の変化による陶器卸販売業者の立地展開

滋賀県信楽町を例に 平田 尚史

ニュータウンにおける高齢化現象と居住環境に関する考察 広浜 三紀

洛西ニュータウンを事例として

震災による防災公園の役割とその危険性 藤岡 隆祥

高齢者にとって住みよいまちづくり 藤崎 仁詞

京都府長岡京市を例に

大津市における大型小売店舗の立地と消費者購買行動 藤本 逸人

京都市市街化区域における公園緑地の立地状況

本間 俊行

大阪市における銀行の立地展開

牧野龍太郎

山口県下関市における在日コリアン社会

町田 史野

京都府亀岡市における農業の変遷

町田 亮

馬路町三ツ辻集落を例に

ナディア・パーク立地による名古屋米地域の土地利用変化 松浦 英美

長崎市の人口分布の推移 松崎 憲次

昭和40年(1965)～平成13年(2001)

京都市におけるコンビニエンスストアの立地条件 松田 三恵

大津市における高齢者の居住と福祉サービス供給に関する地理学的研究 丸山祐一郎

通所介護(デイサービス)を例に

京都市における宿泊施設の立地 三神 友子

住民の価値意識からみた居住環境評価の空間構造

草津市を事例に 三木 隆輝

奈良県三郷町におけるレクリエーション農業の成立 三嶋 雅美

「信貴山のどか村」を事例として

千本通りの盛衰と変遷 三竹 悟史

西陣織物産業との関係について

北九州市におけるガソリンスタンドの立地

特石法を事例として 宮崎 崇行

国境を越える通勤者 宮島 良子

スイスとその周辺国を事例として

京都市の地場産業、金銀糸工業の現状と今後の方向 森 雅裕

京都府の地場産業、金銀糸工業の現状と今後の方向

特に京都府城陽市を中心とした南山城地域の金銀糸加工業者に焦点を当てて

小樽市中心商店街の構造変化

森田 京

大型店立地による影響に着目して

都市郊外における鉄道高架下の土地利用について 粟川香伸子

京阪寝屋川市駅を例に 京橋駅・阪急豊中駅との比較

大阪府北郊および南郊における中心商業地区に対する認識構造とその地域背景 薬師寺浩之

空間認知・情緒的イメージ・価値観に着目して

枚方市における中高層住宅の特性 山形 祐樹

公共住宅と民間住宅による比較

京都市におけるコンビニエンスストアの立地条件と立地分析 山口紗智子

大阪市中央区における有料駐車場の立地

陶業産地における薪燃料の供給 山口 智久

滋賀県甲賀郡信楽町の事例

後期高齢者の外出行動範囲の変化要因について 山路 明伸

中京区壬生を事例として 横山 周平

歴史的都市における地域特性と景観保全

長野市中央通り沿いを例として 古池 祐司

神戸トアウエスト地区におけるファッション関連

ショップ集積の形成過程 吉川しずか

岡山市におけるファッション・エリアの形成過程

吉永 優作

都心部の衣料品小売店の立地を例として

京都市都心部における地価変動と土地利用

脇坂 薫得

トラベルコスト法による観光農園のレクリエー

ション機能評価 渡邊 勲

道の駅「東由利」の実態分析

和田 知宏

秋田県東由利町の地域振興を例として

田園都市線沿線における高齢者福祉施設の立地展  
開 榊原麻友子

横浜市青葉区を事例に

PS/G2Sによるスルメイカ漁場の環境解析

太田 靖子

水温と植物プランクトンの分析に着目して

外国人観光客による京都の都市イメージに関する

研究 市橋 智子

京都市中心部における土地利用の変容と特性

中京区明倫学区を例に 斉藤 久見

大都市郊外における就業者の通勤行動の変容に関

する考察…一九七〇年から一九九〇年代にか  
け 飯室 紘一

て

奈良市在住就業者を事例に

人為的な影響による気候の変化について

古賀真名美

北アメリカの南部に位置するルイジアナ州

ニューオーリンズを例として

東京湾アクアライン開通に伴う南房総地域の変容

について

静岡市中心市街地における駐車場の立地

田中 哲朗

コンビニエンスストアの立地展開と消費者行動に

ついて 沖野 綾子

京都府宇治市・城陽市・八幡市・京田辺市・

久世郡久御山町を例に

Chinatown in Sydney

Its history, function, and prospect

京都市におけるドラッグストアの立地特性

宮城 博之

京都市におけるコンビニエンスストアの立地展開

と企業戦略 巨 元基

人口流動からみた亀岡市における地域の変容

入澤 司

地域振興策としての観光開発

京都府船井郡日吉町を例にして

大都市郊外における自動車交通とその地域性に関

する一考察 杉浦絵美子

奈良県橿原市を事例として

京都市のオフィス立地について 田口 直見

元学区の十七地区を例として

京都市における商店街の変化とその要因について

堀 浩

伏見区大手筋商店街と北区新大宮商店街を事

例に

近郊都市における駅前再開発事業による駅前周辺

の変化と周辺都市に与える影響 水野 崇

阪急川西能勢口駅周辺地区を事例として

茶業地域の研究

京都府相楽郡和束町を事例に

山田 沙織

通勤流動からみた都市の特性

松崎 弘晃

京都市の自動車交通の現状と今後の展望

佐竹 宏仁

奥地山村集落における世帯構成と離村形態

山形県朝日村大鳥地区の事例 佐藤 陽二

テーマパークの立地展開とその周辺における

影響 中村 光辰

京都市の観光と関連させて

観光と飲食店の関係について 吉田憲一良

京都市中京区を例にして

奈良県大和郡山南市における金魚養殖の方法とその

経営構造 宗瀧 行秀

白川女による花卉行商の特性 勝田美穂子

温泉地を訪れる観光客の観光形態について

山梨県石和温泉を事例に 市川 茂

新潟市中心部における高層建築物の立地とその特

性 大塚 健太

ピザ宅配業の立地展開 岡田 尚子

大阪市中部から南部を例として

地方小都市における中心商店街の構造と変容

京都府福知山市の場合 刑部 真矢

岡山市における宿泊施設の立地 小野 真一

農山村集落における村落空間の構成とその具体的

内容 山形県山辺町畑谷を事例として 加藤 一雄

タクシードライバーからみた京都市の認知地図

久保田由美

仙台市における犯罪の地域的特性

佐々木寛元

京都市市街地における喫茶店の立地特性

立岩 佑樹

京都市中心市街地における宿泊施設の分布

馬場 猛

北海道夕張市におけるメロン産業の土地利用の実態

広川信太郎

二〇〇〇年九月東海豪雨による水害と土地条件との関係

藤井加奈子

名古屋市北区楠地区の場合

尼崎市における中心商店街の特性

松井 弥紗

ダム機能の周辺地域に対する影響とその変化

松本 恵実

長野県の古谷ダムを事例に

高松市における地価分布とその変動

山地 秋子

景観観光地の変容と行動圏

渡邊 勇人

京都市嵐山を事例に

人文総合科学インスティテュート

(人間と情報)

視覚探索における大域的パタンの効果

井上 朋子

グラスパタンのテクスチャ分離を用いて

感情状態と感情特性が認知に与える影響

小林 恵子

事前情報が錯誤相関に与える影響

佐藤 郁美

単語判断課題に及ぼす画像のプライミング効果

柴田 亮

視覚情報と聴覚情報の相互作用

辻本 英明

聴覚刺激と視覚刺激が価値判断に及ぼす影響

波多野有美

日本人のアイデンティティ

平川 純嗣

ステレオスコープを用いた奥行き運動における representational momentum現象の検討

宮辻 博文

記憶表象の共存仮説における被暗示性効果と確信度の関係について

山内 麻紀

文字飾りとジョークの面白さの関係

上田真理子

「ワードとカラーの不一致」とATM画面における操作のしにくさについて

山崎 露月

日本酒の歴史と現代社会における存在意義

渋谷 吉哉

モードと民族性

佐々 一真

イスラームにおけるアイデンティティの重層性

瀬川 祐子

THE WORLD MUSIC

井上 智聖

エリントンの音楽に取り込まれたもの

イタリアの外国人労働者

潮 聡子

台湾における日本マンガの侵透

浦嶋 彩子

パトリス・ルコントの片影

小野寺 士

隠喩のシニフィアン

河村 裕美

インド宗教文化から見る宗教と女性

小倉はるか

フランスパンとフランス文化

児玉 夏子

「動物」から見える釜ヶ崎

佐藤 恵美

歌麿版木、平成の復元

志賀 安大

「テクスト」に現れる「植民地的観念」から

茶屋里映子

現代も問われる課題への試論

中沢みのり

『イタリア民話集』

カルヴィーノが目指したグリム

女性と身体

教育と住まいから見る変化

濱田 祐一

建国と宗教に見るアメリカ精神

アメリカ人とは何か

林川 有希

モーツァルトとトルコ

馬場 仁美

バリ芸能の魅力

古瀬 暢子

第三世界における観光開発

地域住民にとって有効な観光開発の考察

ART BRUT

前原 一恵

「赤と黒」で見るスタンダールの恋愛論

言語間の意味範疇のズレとそこに反映される日本

人の価値観・思考

前田 典子

広告とユーモア/芸術

小枝 美香

写真と映画をめぐる思考

芳村 貴子

『日本三文オベラ』論

宇野 善幸

大映京都撮影所における「音」への対応とその表現変化

合奏音楽をめぐる考察

池辺玲衣子

オリエンタリズムと写真

黒田 鉄平

現代化

高木あすか

オリジナルの敗退

熊木 孝文

マクシム・デュ・カンが見た「異邦世界」

池田 豊

一九五〇年代を中心に

高梨 記江

「ほしのこえ」の創作性をめぐって

穴吹 桂子

大島渚映画「御法度」

佐藤 元彦

家畜からコンパニオン・アニマルへ

高梨 記江

いいクルマをつくるには何が必要か

谷内香絵子

現代日本における心の捉えかた

佐藤 元彦

人との関係

多川 葉

Volkswagen Beetleから考える

谷内香絵子

人文総合科学インスティテュート

(人間と表現)

映像についての教育の必要性とその方法としての映像制作体験

多川 葉

「ローミオとジュリエット」映像作品比較論

梶原めぐみ

地域政策による生活の芸術化とその可能性

瀧野 由美

「マーラーの時代」は来たか

梶原めぐみ

色彩と人間

浅石 彩子

ジュゼッペ・トルナトーレ作品研究

瀧野 由美

河鍋暁斎 「日本美術史」のアーノーマリー

清水 智世

桃山のやきものの「美学」

阿部 隆太

『O嬢の物語』

千早 茜

「いじめ・荒れ」と学校教育

関沢征史郎

茶の湯の精神と日本人

荒垣 和孝

逃走するヒーロー

得田 聖子

W・S・モーム考

池田 豪

旧ユーゴスラヴィア

荒垣 和孝

『機動戦士ガンダム』に関する考察

得田 聖子

その人間観

池田 豪

経済と民主主義の破綻

稲葉みのり

京都の町並みの歴史と未来

中川由美子

マドンナにみる新しい女性の姿

北崎 裕子

蛇・狐信仰と「稲荷」の変容

稲葉みのり

京都駅を中心に

中川由美子

Ike a virgin

北崎 裕子

「神話代」

上原さおり

安岡章太郎とアメリカ

中生 成樹

化粧文化の普遍性について

早野 幸

時間論

臼井 克之

グシャノピンツメ

山口 洋輝

ファッションの専制

岡田 真実

聖と俗そして貴と賤のはざままで

川端 美季

自主映画の可能性

得田 聖子

装いとモラルとアドレナリン

松本 勝仁

日本中世社会における境界世界

川端 美季

ユニバーサルデザイン

西尾 美穂

人は誰かになれるか

松本 勝仁

留守番電話にコーヒー流し込んでみた

京楽 省吾

作家宮崎駿研究

蛭川幸太郎

演劇におけるリアリズム

松本 勝仁

壊れた、心地よい音が聴こえた

京楽 省吾

映画における言語性について

前田 伸恵

黄色いレインコートの男達

相原 亮

山岸涼子のマンガにみる日本的なるもの

北田 千里

カンディンスキーとシャガールに見る対象・非対象

前田 伸恵

アンゲロプロス作品におけるクロスの表現

相原 亮

マチスの《ダンス》

北田 千里

フォト・コラージュとホックニーの視覚

前田 伸恵

マンガの身体性

伊藤 隆裕

マチスの《ダンス》

熊谷さやか

フォト・コラージュとホックニーの視覚

前田 伸恵

切り裂きジャックはかくして神になれり

本間 功一

人文総合科学インスティテュート  
(アジアと現代)

より参加型の観光へ

中国・出稼ぎ労働者の実態

松山 公美

制度と意識の中で

対華人政策の変化から見るベトナム

高瀬 賢志

『客家特殊論』の再考から見えてくる現代的諸問題

20世紀中頃以降の中越関係史とともに

近現代中国における「男女平等」

清村 祐子

イスラームと民主主義

池原 良浩  
稲垣 健太

文化大革命について

飯降 好助

台湾人とは誰か

上杉 涼子

日本植民地支配下の日本語教育を中心に

現代における生殖の課題とは何か

臼井 直子

アメリカ黒人音楽の社会的メッセージの変容

内倉 将

文化の重層について

小林 晶

フレディ・マーキュリーと世界の戦後

佐藤 恭子

日本の「アジアブーム」とベトナム

東海林 彩

RESPECT!

REGGAE OF REGGAE

アイヌ民族と観光

菅原 貞奈

中国系「中国人」

杉森 聡

浮遊するアイデンティティ

田中 教子

アフリカ狩猟採集民の食から見る文化変容と現代

豊桑 清香

江青 悲劇の「悪女」

原 奈津子

おもちゃと文化

福田 尚子

清末中国における「西洋の衝撃」

山本謙一郎

日本は台湾で何をしたのか

長束 幸

これからの観光

幸

カナダ ファーレスト・ネーションズのエスニック・

アイデンティティ

細川 桂子

洞窟に潜む何か

吉田 尚史

近代ニヒリズムの行方

戦後の新聞見出しに見る体罰について

野田 桃子

星と神話

渡辺 智子

原住民と観光

池田こず恵

台湾原住民社会における「表演」活動の推移と実態

寺山修司に関する考察

上中 沙織

クレス・オルデンバーグ

小堀 靖洋

変化と不変ノ普遍

人文総合科学インスティテュート  
(文化と社会)

日本における相撲考察 相撲が国技と言われ

る理由 安達 匠

現代社会におけるスポーツの役割 加藤 洋基

日本のサービス業界における不況原因について

生産的サービスから心理的サービスへ 神谷浩太郎

太宰治中期の文学 木田晃之助

お伽草紙を中心に 鈴木 淳子

照葉樹林地帯の人々と茶 鈴木 淳子

日本の仏塔建築形成における仏教思想とアミニズ

ム背景 田口登紀子

多宝塔形式の起源からの考察

文化と感情 大坊 卓生

京都空間人類学 中澤 靖成

食事における振舞いと礼儀作法 萩原 史織

フランス宮廷社会を中心に考える